

これからのことを…4の(19)

●方丈記を読んで(5)



鴨長明

子どもの姿が目に焼き付いて

本当に衝撃的なニュースが。2月24日ウクライナにロシアが侵攻して、多くの住宅や病院までも爆撃され、その中で沢山の子どもたちの命が。その子の傍で呆然と立ち尽くす母親の姿をテレビが映していました。3月9日現在で200万人のウクライナの人々が国外に避難したと。今回のことはどんなことがあっても許される行為ではありません。テレビの映像を辛くて正視できません。でも、そんな中で生きていかに

るを得ない人たちがいるのです。

方丈記前半の時代、京では

長明さんが生まれて(1155年)すぐには天皇家や摂関家の内紛から保元の乱(1156年)が起きました。皇族、貴族それぞれ親族を二分して戦ったのです。その時武士の力が必要とされ、同じくこちらでも親族二分に。

この乱以降貴族の世から武家の世へと時代が大きく転換していくんです。その3年後の平治の乱では先の乱の勝者側がそれぞれまた分裂して戦います。武士では源義朝氏と平氏清盛が。これらは今の京都市内を主戦場としており、目の前で殺し合いがあったといえます。その結果、勝った側の平清盛には敵なしの状態—平家にあらずんば人にあらず—に。でも、その20年ちょっとで6年にも及ぶ源平争乱があり、鎌倉幕府(1185年)が誕生し、

義朝の子の源頼朝が第一代将軍に。完全に武士の時代に。

長明さんは

方丈記の五大災厄(大火、辻風、遷都、飢饉、大地震

)がその時同時平行で起こっているんです。彼は鋭い感覚で源平の争乱を見ているはずですが、方丈記のどの部分を見てもどこにも。ただ一度だけ直接的ではないですが、次のような記述があります。

『伝へ聞く、いにしへの賢き御世には、あはれみをもって、国を治め給ふ。～煙のともしきを見給ふ時は、かぎりある貢物をさへゆるされき。～』と。

先ほど登場した平清盛は日宋貿易を頭に入れ、400年続いた京から福原へ遷都を強行。長明さんはその福原にも行き細かく見て来ました。結局遷都は5か月半程で挫折。古都は何もかも荒れ果てていたんです。人の気持ちも。その後2年間飢饉、疫病が続き、京の都では全人口10万人余りの内4万2千3百人余り亡くなっています。

平清盛はこの間没しています。

戦いの中、市井の民は

歴史とは何でしょうか。天皇の動向は直接歴史に関与してきますが、名もない多くの民にとっては？もしかすると長明さんはそこにこだわっていたのではないのでしょうか。次から次へと襲ってくる災害の前で悲しむ、苦しむ多くの民。それに対し京の中では源平の争乱が絶え間なくあり、何一つまともな対策がとられない、生きることも死ぬこともどちらも苦しい、歴史の記録にも上らないそんな民の情景を長明さんは克明に書いていったんです。

方丈記前半の記述の意味合いがわかる

ように思います。

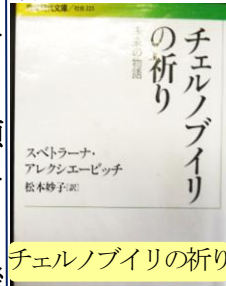
「チェルノブイリの祈り」

2015年ノーベル文学賞作家アレクシエービッチさんらロシアの作家17名が「(ロシア市民に)真実を伝えて」との声明を英国紙が報道したそうです。(9日京都新聞朝刊より) 彼女は1986年チェルノブイリ原発事故で苦しむ人々からの取材で「チェルノブイリの祈り」を執筆。普通の人々が黙って語ら

なかった声を聞き取ったんです。ペラルーシ出身ですが、言論統制がきつく2020年からドイツへ。ここまできて長明さんとなつがっているように思いました。時代や国も違うけれど、多くの人々が本を手にし、寄り添ってくれるという。歴史はそんな所から動かされるのでは。

戦争というもの

世界を問わず、いつの時代でも力を持たない人々が沢山の犠牲になっています。戦争というものほどこんなに大切に関係を紡いでいても、一瞬で全てを消し去ってしまいます。親、兄弟、姉妹、友達をバラバラにしてしまいます。そこで銃を持ち戦っている子が、離れ離れになって泣いている子が、撃たれて横たわる子が、もしかすると自分の子や孫かもしれない。こんな中、生まれたばかりの子がいました。生まれてきてありがたうと祝福されるはずが爆撃を避けて、地下室で。それが戦争なんです。



チェルノブイリの祈り

八幡まるごと館だより

2022年3月10日/147号

＜発行＞八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

＜2月にこんなことをしました＞

味噌を作る 2月25日 昨年に続き講師



の方々に来ていただいているのですが、5組の方が参加されました。事前に大豆を煮て

当日鍋ごと持って来ていただきました。下記は作業工程です。

①大豆を潰す

ビール瓶の登場で



潰すのは疲れますが、皆さん頑張って作業をされました。これは大豆が柔らかく煮てあるかどうかで手間が随分

変わります。

②麴を混ぜる

塩のかたまりを手でほぐし、麴と混ぜて、それを潰した煮大豆と混ぜます。乾



燥麴なので、煮汁を適度に加え混ぜます。麴が膨らむ様子を見ながらくり返し、30分

ぐらい放置します。まだかたそうなら煮汁を加えます。

③重石の消毒

小石を熱湯で消毒して、その後熱いうちに塩の中に転がすと、石の表面に塩の結晶がきれいにつきます。これが効力を。



④バラとカメを消毒する
麴が膨らむのを待っている間にバラ

ンをカメの形に合わせて適度に切り、濃厚な食塩水



でバラやカメを拭きます。

⑤カメに仕込む

丁寧に仕込みます。上にバラ

ップします。

というのが大雑把な味噌作りの工程。1kgの大豆で4,5kgの味噌が出来上がります。早くても



今年の12月まで食べるのを待って下さい。2年目になると味噌の色が濃くなってより美味しいです。2010年から毎年講習会を行い、昨年からはまるごと館が手伝う形で実施してきました。ご興味がある方は



絵手紙講習会

敵な時間だと思えます。講師の森本玲子さんはとてもお上手にほめて下さって、だからこそくじけずに2013年5月からずっと続けて来られたん

9日参加者はいつもより少なかったです。中々描こうとする物の色にならなくて苦心して、時にはため息もですが、描いている時はとても集中して素

です。今のコロナ禍でも休まずに動いて下さって、感謝しています。早く世の中が落ち着いて、当たり前前に皆さんとわいわい言いながら描けたらいいと思います。

八幡まるごと館 3月・4月の予定

休館 4月4日(月)

＜楽しい理科の実験 N042 電気パン＞ 持ち物 なし 初めての方もどうぞ 3月4日(金)13時30分～ 講師木下章司さん 参加費300円(コーヒーつき)
＜パソコン教室＞ 毎週月曜日10時～12時です 3月7日(月)10時～12時 パソコンを持って来て下さい。費用 300円(コーヒーつき)
＜絵手紙講習会＞ 3月9日(水)午後1時30分～ 講師 森本玲子さん 参加費 400円(コーヒーつき) 次回は4月13日(水)です
＜歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N032＞ 3月10日(木)13時30分～ 講師出口修さん 参加費100円 月1回です
＜オカリクラブ ひまわり＞ 楽しめる時こ 3月28日(月)13時～ 参加費100円



まるごと館までお越しください。美味しいです。この日は久しぶりの取り組みで

した。いつもは家にじっとしている状態で久しぶりで、話して楽しかったと参加者の方が言われました。2時間もかかりませんでしたね。一仕事で終えたという気持ちになります。やれやれと。

＜あんなこと・こんなこと＞

*ウクライナのことを報道されるようになって、もう2週間になります。テレビで砲撃あとの残骸や人々の悲しむ画像が映されると見るのが苦しくなってきました。生きてきてその生を全うしないでこんな形で、というのはたまりません。小さい子がひとり隣国に避難する様子をテレビが伝えていました。母親は自分の親をひとりここに置いていくこと

が出来ないから、息子だけは安全な場所に、と涙ながら話していました。近いうちに無事にあの親子が会えたらと思います。

*歴史は苦手でありわかっていませんから、間違いがあるかもしれません。ご指摘いただけたら嬉しく思います。NHKの大河ドラマもこの平安末期から鎌倉時代辺りのことではないかと思えます。誰と誰が結びついて、ということが多くかと思えます。

*余り取り組みが出来ない2月でした。多分皆さん方も出かけることを控えておられたのではないのでしょうか。もう2年もこういう生活が続いています。沢山で集まって賑やかに話したいです。(うえたに じゅんこ)